

以下の『海洋ごみ問題』に関する記事を読み、皆さんが取り組める具体例を2つ以上挙げた上で思うことを300字程度で自由に書いてください。（ルーズリーフやノートに記入し、次回登校日に担当矢沢まで提出）



この記事の POINT !

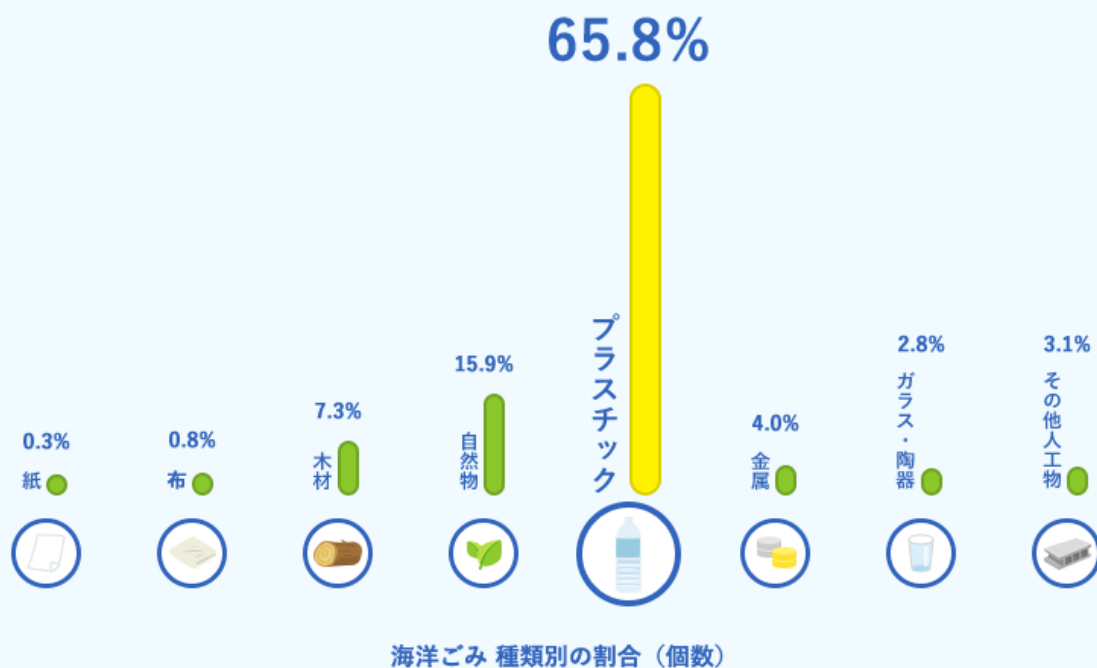
- 海洋ごみ問題が深刻化、2050年には魚より海洋ごみの量が多くなると言われている
- 海洋ごみの7~8割が街から発生。雨が降った際などに路上のごみが川や水路に流出し、海へ至る
- 国や企業だけでなく、一人一人のごみを減らす意識や行動が、海の未来を守る

私たちの海がごみで溢れようとしている。プラスチックごみだけをとっても、世界に合計1億5,000万トン以上(※1)の量が存在していると言われ、毎年約800万トン(ジャンボジェット機にして5万機相当)(※2)に及ぶ量が新たに流れ出ていると推定される。美しい海が消える。これは、遠い未来の話ではなく、私たちの子どもや孫の世代に起きうる問題なのだ。

※1.参考:WWF ジャパン WEB サイト「海洋プラスチック問題について」、McKinsey & Company and Ocean Conservancy(2015)

※2.参考:WWF ジャパン WEB サイト「海洋プラスチック問題について」、Neufeld,L,et al.(2016)

次の表を参考にしてほしい。



海洋ごみにもさまざまな種類があるが、もっとも問題とされているのがプラスチックごみである。海洋ごみの半分以上を占めるプラスチックごみは、その素材の性質上滞留期間が長く、中には400年以上海の中を漂うものもあるという。

海洋ごみの65パーセント以上をプラスチックごみが占める。環境省「海洋ごみをめぐる最近の動向」(平成30年9月)より引用

環境省の調べによると、毎年海に流出するプラスチックごみのうち2~6万トンが日本から発生したものだと言われている。このままでは2050年の海は、魚よりもごみの量が多くなると言われるほど問題は深刻化している。

海の生物たちへの影響も甚大だ。これまでに魚類をはじめ、ウミガメや海鳥、クジラなどの海洋哺乳動物など少なくとも700種ほどに被害をもたらしている。この内92パーセントがプラスチックごみによる影響(※)で、例えば、ポリ袋を餌と間違えて食べてしまったり、漁網に絡まったりして傷つき、死んでしまうことも日常だ。

図表: 海洋ごみでプラスチックごみが占める割合

※ 参考: WWF ジャパン WEB サイト「海洋プラスチック問題について」、Gall & Thompson(2015)

海洋ごみがこのまま増え続けると、漁業や観光業への影響だけでなく、船舶運航の障害、沿岸中域の環境も悪化。これは、はっきりと分かっている問題だけで、地球の表面積の7割を占める海の汚染が及ぼす影響は未知数の部分も多い。

海洋ごみの7～8割は街から

海洋ごみはいったいどこから来るのか。その大半は私たちが暮らす街からである。街で捨てられたごみが水路や川に流れ出し、やがて海へとたどり着く。



図表: 海洋ごみの発生メカニズム(プラスチック)

日本財団と日本コカ・コーラ株式会社が2019年に東京都、神奈川県、富山県、岡山県、福岡県の河川流域を中心に実施した調査によると、ごみの発生原因は「投棄・ぼい捨て系」「漏洩(ろうえい)系」の2つに大別されることが分かった。

「投棄・ぼい捨て系」では、これまでモラルの問題と一括りにされることが多かったが、社会的な問題や産業構造などが要因でごみを投棄・ぼい捨てせざるを得ない状況も発生していることが明らかとなった。

一方「漏洩系」では、ごみを集積している地点からの漏洩や、災害時の応急処置で使用され経年劣化した製品や農業資材の流出が確認された。

では、そのような流出経路をたどる海洋ごみに対し、どのような対策が有効なのか…